

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 50

2012年2月21日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。



□ I J R C 創立 20 周年特別寄稿 -11-

ー静岡大学イノベーション共同研究センター [IJRC]

(旧：地域共同研究センター)は2011年4月に20周年を迎えましたー

「地域の新産業創出のために産学官連携プロジェクトの推進を」

現在、浜松地域のものづくり企業の6割以上を占めている輸送用機器関連の製造業は、2008年の世界的な経済危機、2011年の大震災や洪水、最近の円高やグローバル化等の影響によって、過酷な試練にさらされています。特に、この地域で生産するオートバイ製品が激減したまま回復の見通しが立っていないのが現状です。そのため、このオートバイ生産を支えてきた、いわゆるサポーター・インダストリーは、これに替わる新たな産業創出を切望しています。しかし、オートバイに替わるような大きな産業を再生する新製品の開発は、一朝一夕にはできないというものではありません。

この創立20周年記念特別寄稿のトップバッターとして、現センター長が、「センターは、浜松の都田テクノポリスに拠点を置いた創立当初から、国立大学法人と産学連携活動の本格化を経て現在に至るまで、静岡大学と地域社会とを繋ぐ窓口として活動し、共同研究、大学発ベンチャー支援、知財支援、技術移転の実績を挙げてきました。」と述べ、さらに、「そして今、これからの産学連携は“研究が社会に出る直前の稲刈り段階にとどまらない研究の種まき段階からの支援”を行って、静岡大学のブランド力に繋げる活動にしたいと考えています。」と述べられています。大学の独自の研究から生まれるシーズをベースとして大学発ベンチャーに育てたり、知財を技術移転することにより、新製品開発に結びつける努力も行われていますが、この地域の再生発展に繋がるような大きな産業にまで成長するには、まだまだ大変な時間と努力と資金が必要になると思います。

この地域は、やはり輸送用機器を生産する産業集積地であることが最大の強みであり、この強みを活かした新製品開発として、次世代自動車の開発が最も可能性が高いと考えます。静岡大学イノベーション共同研究センターが中心となって、地域の輸送用機器製造企業、および浜松市とその近隣の市町村を巻き込み、次世代自動車の開発を進めるような大きなプロジェクトの企画を試みては、と思っています。

(記：第5代センター長 [平成18~19年度] 中村 保)

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「平成23年度 東海 i NET 報告会」 ご案内
2. 「グローバルイノベーションフォーラム2012」 ご案内
3. 「産学官マッチング会 in 豊橋」 ご案内
4. 「第3回近未来自動車/交通システムシンポジウム」 ご案内
5. 「静岡大学機器分析センター講習会」 ご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

1. 「平成23年度 東海 i NET 報告会」 ご案内

【文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）
「特色ある優れた産学官連携活動の推進」】

日時 2012年3月1日（木）10：00～12：00
会場 ホテルクラウンパレス浜松 4階 芙蓉の間
主催 静岡大学、豊橋技術科学大学
プログラム

1. 開会挨拶 10：00～10：05
静岡大学 理事（社会・産学連携担当）、副学長、
知的財産本部長 柳澤正
2. 来賓挨拶 10：05～10：15
文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課
3. 事業報告 10：15～10：30
豊橋技術科学大学 学長補佐、産学連携推進本部長補佐 田中三郎
10：30～10：45
静岡大学 知的財産本部 副本部長 出崎一石
4. 調査研究報告 10：45～11：05
「共同研究における出口イメージを構成する指標・要素の抽出と
産学双方における共有方法の調査研究」
静岡大学 イノベーション共同研究センター 学術研究員 関雄二
5. 特別講演 11：05～11：55
「これからの産学連携：
大学知を活かす技術移転から知識移転への転換」
特許業務法人太陽国際特許事務所 理事 業務推進室長
日本ライセンス協会 会長 原嶋克巳氏
6. 閉会挨拶 11：55～12：00
豊橋技術科学大学 副学長、産学連携推進本部長 石田誠

参加費 無料

定員 100名

申込〆切 2012年2月28日（火）

詳細/申込

<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/center/eventlog/no90.html>

問合せ先 国立大学法人静岡大学 知的財産本部

TEL 053-478-1414 E-mail tinet@cjrr.shizuoka.ac.jp

2. 「グローバルイノベーションフォーラム2012」ご案内

日時 2012年3月1日（木）13：30～18：30
会場 ホテルクラウンパレス浜松 4階 芙蓉の間
主催 静岡大学、（財）浜松地域テクノポリス推進機構
内容

■基調講演「日本の経済復活のためのグローバルビジネスモデル」

立教大学 経済学部 教授

中小企業サポートネットワーク 主宰 山口義行氏

■パネルディスカッション

「日本企業が直面するグローバル化にどう対応するのか？」

本多電子株式会社 代表取締役社長 本多洋介氏

九州大学産学連携センターデザイン総合部門 教授 湯本長伯氏

日本貿易振興機構静岡貿易情報センター所長 藤本和彦氏

立教大学 経済学部 教授 山口義行氏

■情報交換会

参加費 無料（情報交換会は参加費 3000円/1名）

申込〆切 2012年2月24日（金）

詳細/申込 <http://www.hamatech.or.jp/GIF-annai.pdf>

問合せ先 (財) 浜松地域テクノポリス推進機構
TEL 053-489-8111 E-mail takahashi@hamatech.or.jp

3. 「産学官マッチング会in豊橋」のご案内

「産学官マッチング会」は、事前に地域産業界にアンケート調査を行い地域のニーズを集約してそれを発表に反映させることで、従来行われていた「大学等が選んだ研究成果をご紹介する場」から一歩進んで、「地域産業界の皆様のご要望にあわせた研究成果をご紹介する場」として企業ニーズと大学等シーズのマッチングを促進するものです。
多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時 2012年3月9日(金) 13:30~16:40
会場 豊橋商工会議所4階406室 (JR豊橋駅東口から徒歩5分)
内容 「風洞を用いた各種流体现象の解明」
豊橋技術科学大学 機械工学系 関下信正
「予測不可能な生産活動の乱れに対応可能なスケジューリング」
豊橋技術科学大学 機械工学系 阪口龍彦
「農商工観連携を目指すバイオマス・パーク実証試験」
豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 大門裕之
「太陽光発電システム~大量普及時代の運用と保守に関する課題」
豊橋創造大学 情報ビジネス学部 見目喜重
「絶縁体の劣化判定に役立つ電荷観測」
豊田工業高等専門学校 電気・電子システム工学科 光本真一
「未来を切り開くナノテク技術と電気・自然エネルギーの利用」
豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 田上英人

※各講演終了後、個別相談(15分程度)を実施します。

問合せ先 豊橋技術科学大学 産学連携推進本部
TEL 0532-44-6983 FAX 0532-44-6980
E-mail : office@ochizai.tut.ac.jp

4. 「第3回近未来自動車/交通システムシンポジウム」のご案内

日時 2012年2月29日(水) 13:15~20:00
会場 静岡大学浜松キャンパス佐鳴会館 (静岡県浜松市城北3-5-1)
主催 静岡大学工学部、情報学部、電子工学研究所
プログラム
12:30~ 開場 (展示ブースの見学可)
13:15~13:30 開会の挨拶
13:30~15:00 招待講演
篠原真毅氏 (京都大学 生存圏研究所教授)
「無線送電が開く電気自動車の未来」
市川浩之氏 (日産自動車(株)総合研究所EVシステム研究所主任研究員)
「The Nissan LEAF Electric Powertrain」
鈴木誠氏 (遠州鉄道(株)運輸事業部長)
「遠州鉄道における交通システム」
15:00~15:45 展示ブースの見学および休憩
【出展機関】 スズキ(株)、ヤマハ発動機(株)、(株)ユニバンス
(株)Takayanagi、(株)ファクトリーインブルーブメント
NPO法人HSVP、はままつ産業創造センター
静岡理科大学学生フォーミュラSFPチーム
静岡大学各研究グループ
15:45~16:00 はままつ次世代環境車社会実験協議会の紹介
16:00~17:15 成果報告

学生フォーミュラSUM (Shizuoka University Motors) チーム
材料加工研究グループ
電池研究グループ
ワイヤレス送電研究グループ
情報通信研究グループ

17:15~17:30 閉会の挨拶

18:00~20:00 交流会〔高柳記念未来技術創造館〕

参加費 無料〔交流会は会費2,000円〕

申込方法 お名前、ご所属、ご連絡先(住所・電話・FAX・E-mail)、
交流会参加可否をご記入の上、下記宛てお申込みください。

申込/問合せ先 静岡大学工学部企画係 FAX 053-478-1005

メール thmakiz@ipc.shizuoka.ac.jp

5. 静岡大学機器分析センター講習会ご案内 【不安定な単結晶のX線構造解析】

日時 講義 2012年2月29日(水) 10:20~12:00(予定)

実習 2012年2月29日(水) 13:30~16:00(予定)

会場 講義 静岡大学静岡キャンパス 理学部B棟213室

実習 静岡大学機器分析センター X線装置室II (222室)

内容 X線回折装置を用いた不安定な単結晶の構造決定

講師 静岡大学機器分析センター 准教授 近藤 満

対象 希望者どなたでも

参加費 12,000円(講義、実習のいずれか、又は両方に参加した場合)

定員 【講義】制限無し 【実習】申し込み順で5名程度

詳細

<http://www.shizuoka.ac.jp/~kikibun/koushuu.html#koushuu04>

申込締切 2012年1月31日

申込/問合せ先 静岡大学機器分析センター TEL 054-238-4834

E-mail ukikibun@ipc.shizuoka.ac.jp

《 静大ラボ紹介 -35- 》

情報学部情報科学科 峰野博史 准教授

<http://www.minelab.jp/>

ネットワークを介して様々な電気製品を繋げようとするホームネットワークや、東日本大震災を契機に一気に実用化への期待が高まった次世代住宅スマートハウス構想。私たちの日常生活を豊かにするのはもちろん、近年では地球環境にも配慮した住環境の実現が世界的に注目を浴びています。

これらは、機器同士が相互通信を行って連携することが必須条件ですが、各々のメーカーが歩んできた技術発展史や差別化合戦によって独自の通信規格を持った機器が必然的に生まれる現在の市場において、メーカーの垣根を越えた様々な機器同士の相互接続が関連業界での深刻な課題となっています。

静岡大学の情報学部情報科学科 峰野研究室では、上記のような課題を克服し、スマートフォンなどのモバイル端末から「多種多様な機器にいつでもどこでも相互接続可能なコンピュータネットワークシステム」の実用化開発に情熱を捧げています。

浜松・東三河地域オプトロニクスクラスター事業の取り組みテーマでもある峰野先生の研究成果が広く普及することによって、次世代住環境早期実現への期待が膨らみます。

【研究分野】情報科学、通信・ネットワーク工学

《 みんなのコラム -49- 》

記：電子工学研究所 准教授 青木 徹

私は本学工学部・工学研究科で化学系を卒業し、博士課程では半導体気相成長の研究で学位を取得し、着任後は光電子デバイス・材料に関する研究を経て放射線検出器に関する研究を行っている。現在はその研究と共に、情報学部・情報学研究科での講義や学生の研究指導を行っている。恩師が産学連携に力を入れていたこともあり、自身としてはごく自然に産学連携を受け入れ現在に至っている。点と点のように見えるこれまでの研究は実は着実に点と点をつなぎ、線から面へと展開させていると自負している。

この大きな契機となったのが2002年の文部科学省知的クラスター創成事業を実質サブテーマ代表として受けたことである。当時は助手でそれまでもNEDOなどの大型の外部資金を導入した研究を進めていたものの、純粋な学術にあこがれ基礎学問へ深く入り込みたいと考えていた。ところがクラスター事業で産業界の方（特に直接の共同研究先の大手企業の技術者ではなく）先駆的中小企業の開発者との出会いが大きく考えを変えさせた。自分たちのトップを走る技術は当然先端を突き進むが、自分たちが研究開発をしていない分野の進展を見つめ、積極的にその成果を取り入れていくという考えである。周りの進展成果は積極的に取り入れる、という方針が私の研究を支えている。

現在は放射線検出器をベースにその応用に関する研究を進めているが、クラスター事業を中心に、JSTやNEDOなどの研究開発を通じ10年ほど前からスタートした放射線でのエネルギースペクトルやフォトンカウンティング応用などは、今となって学会、産業界で多く取り上げられてきている。短期に成果が出る研究ばかりになる、といわれることもある産学連携であるが、大学の教員の資質が問題でその活用がうまくできていない点が原因であると考えている。よくご理解いただいた産業界の方と協業できたのが大きな理由ではあるが、私自身はこうした先を見る研究開発が出来たのも産学連携があったからだと思っている。

また、2011年4月に大学発ベンチャー（株）ANSeeNを起業し、放射線検出器とそのシステムに関しての製造販売を行っている。原発事故対応向けの線量計などで天手古舞いであるのが本音のところであるが、低被ばくが強く意識されフォトンカウンティング技術などの社会要請が急激に強まる中で、実用製品を送り出し社会のお役に立つこともこれまでの皆様のご支援への恩返しであると考えている。大学への教育研究と融合した効果を生み出せるよう活動したいと考えているので、今後とも一層のご支援をお願いしたい。

《 編集後記 》

外為法に基づく「安全保障貿易に係わる輸出管理」については、今、大学においても組織的な管理体制を求められています。

静岡大学では、文科省大学等産学官連携自立化促進プログラムで進めている“東海iNET”（静岡県から愛知県東部の国公私大高専の産学連携ネットワーク）の皆で外為勉強会を行ったのが初めて2008年の事でした。それから4年。現在では、学内に安全保障輸出等管理室を設置し、規則や取扱要項、ハンドブックを策定。今年度末を期限に教員対象のスクリーニング調査を行っており、具体的な対応を日々求められています。

【事例紹介1】

中国のA科学院の研究者から、理学部のB教授に「核融合に関する研究

技術を教えてほしい」との依頼。A科学院は軍との関係が組織図から確認でき、A科学院のホームページでも核実験施設等の写真がいくつか確認することができた。A科学院は外国ユーザーリストには掲載されていないものの兵器開発等の懸念が払拭できなかった為、安全保障輸出等管理室から経済産業省安全保障貿易審査課に報告、相談した。

【事例紹介2】

インドのC研究センターの研究者から、電子工学研究所のD教授に「今後の研究の進め方について打ち合わせをしたい」との依頼があった。D教授はC研究センターの研究者とは以前から共同研究を行っていた。C研究センターは2009年に外国ユーザーリストに追加掲載されており、D教授の行なっている研究内容は懸念される区分とは違うものの、半導体に関する最先端の研究を行っており、幅広い応用の可能性があった。安全保障輸出等管理室の担当者がD教授と話し合った結果、今回は既に論文等で発表されている研究の打ち合わせのみにとどめていただいた。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。(↑送付の際は〇欄に@を入れてください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC)
編集：原典子
編集責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414
URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

Copyright(c)2008-2012 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University. All rights reserved